

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-497 改1
提出年月日	平成30年8月21日

日本原子力発電株式会社
東海第二発電所 工事計画審査資料
放射性廃棄物の廃棄施設
気体、液体又は固体廃棄物処理設備
(気体廃棄物処理系)

(本文)

放射性廃棄物の廃棄施設

2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備

2.1 気体廃棄物処理系

- (1) 熱交換器
 - a. 排ガス復水器
 - b. 排ガス前置除湿器
 - c. 再生ガス加熱器
- (4) 容器
 - a. 排ガス再結合器
- (8) ろ過装置
 - a. 排ガス気水分離器
 - b. 排ガス前置フィルタ
 - c. 気水分離器
 - d. 排ガス後置除湿器
 - e. 排ガスメッシュフィルタ
 - f. 排ガス活性炭ベッド
 - g. 再生ガスメッシュフィルタ
 - h. 再生ガス気水分離器
 - i. 再生ガス油分分離器
 - j. 排ガスフィルタ
- (10) 主配管
 - a. 管
 - (a) 排ガス空気抽出器
 - (b) 排ガス消音器
 - (c) 再生ガス消音器
 - (d) 主配管

2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備に係る次の事項

2.1 気体廃棄物処理系

- (1) 熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料及び個数

			変更前	変更後	
名 称			排ガス復水器	変更なし	
種 類	—	横置U字管式			
容 量（設計熱交換量）		MW/個	<input type="text"/> (4.86 ^{*2, *3})		
管 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.86 ^{*1}		
	最 高 使 用 温 度	℃	538		
胴 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	2.41 ^{*1}		
	最 高 使 用 温 度	℃	538		
伝 熱 面 積		m ² /個	<input type="text"/> (207 ^{*3})		
主 要 寸 法	管 側	胴 内 径	mm		900 ^{*3}
		胴 板 厚 さ ^{*4}	mm		<input type="text"/> (16 ^{*3})
		鏡 板 厚 さ	mm		<input type="text"/> (16.0 ^{*3, *5})
		鏡板の形状に係る寸法	mm		900.0 ^{*3, *5} (鏡板長径)
					225.0 ^{*3, *5} (鏡板短径の2分の1)
		冷 却 水 入 口 管 台 外 径	mm		165.2 ^{*3, *5}
		冷 却 水 入 口 管 台 厚 さ	mm		<input type="text"/> (7.1 ^{*3, *5})
	冷 却 水 出 口 管 台 外 径	mm	165.2 ^{*3, *5}		
	冷 却 水 出 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (7.1 ^{*3, *5})		
	胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	<input type="text"/> (60.0 ^{*3, *5})		
	胴 側	胴 内 径	mm		900 ^{*3}
		胴 板 厚 さ ^{*4}	mm		<input type="text"/> (30 ^{*3})
		鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (30.0 ^{*3, *5})	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	900.0 ^{*3, *5} (鏡板長径)	
225.0 ^{*3, *5} (鏡板短径の2分の1)					
排 ガ ス 入 口 管 台 外 径		mm	267.4 ^{*3, *5}		
排 ガ ス 入 口 管 台 厚 さ		mm	<input type="text"/> (9.3 ^{*3, *5})		
排 ガ ス 出 口 管 台 外 径	mm	114.3 ^{*3, *5}			
排 ガ ス 出 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (6.0 ^{*3, *5})			

(続き)

			変更前	変更後	
主要寸法	管板厚さ*6	mm	□ (110.0*3, *7)	変更なし	
	伝熱管外径	mm	15.9*3		
	伝熱管厚さ*8	mm	□ (2.6*3)		
	全長	mm	4890*3, *9		
材	管側	胴板*10	—		STPA23 相当 □
		鏡板*10	—		STPA23 相当 □
	胴フランジ	—	SFVAF11A 相当*2 □		
	胴側	胴板*11	—		STPA23 相当 □
		鏡板*11	—		STPA23 相当 □
	管板	—	SUS304		
	伝熱管	—	SUS304TB		
個数	—	2			

注記 *1: S I 単位に換算したもの。

*2: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*3: 公称値を示す。

*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*5: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 54 年 11 月 2 日付け 54 資庁第 11618 号にて認可された工事計画の添付書類「1-3 排ガス復水器の規格計算書」による。

*6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「管板厚」と記載。

*7: 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴フランジと管板端部を含めた厚さである「114 mm」と記載。記載内容は、昭和 54 年 11 月 2 日付け 54 資庁第 11618 号にて認可された工事計画の添付書類「1-3 排ガス復水器の規格計算書」による。

*8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱管肉厚」と記載。

*9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には、管側鏡板端部から排ガス入口管台端部までの全長である「4890 mm □」と記載。

*10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切室」と記載。

*11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。

			変更前	変更後	
名 称			排ガス前置除湿器		
種 類	—		たて置直管式		
容 量	kW/個		[] (3.63 ^{*2, *4})		
管 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	(正圧) 0.34 ^{*1} (負圧) 0.10 ^{*1}		
	最 高 使 用 温 度	℃	66		
胴 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.58 ^{*1}		
	最 高 使 用 温 度	℃	66		
伝 熱 面 積	m ² /個		[] (25 ^{*4})		
主 要 寸 法	管 側	胴 内 径	mm	500 ^{*4}	
		胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	[] (9 ^{*4})	
		上 部 平 板 厚 さ	mm	[] (28.0 ^{*4, *6})	
		下 部 平 板 厚 さ	mm	[] (30.0 ^{*4, *6})	
		排ガス入口管台外径	mm	80.0 ^{*4, *6}	
		排ガス入口管台厚さ	mm	[] (9.5 ^{*4, *6})	
		排ガス出口管台外径	mm	80.0 ^{*4, *6}	
		排ガス出口管台厚さ	mm	[] (9.5 ^{*4, *6})	
	胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	[] (30.0 ^{*2, *4})		
	胴 側	胴 内 径	mm	500 ^{*4}	
		胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	[] (9 ^{*4})	
		上 部 管 板 厚 さ	mm	[] (35.0 ^{*4, *6})	
		下 部 管 板 厚 さ ^{*7}	mm	[] (26 ^{*4})	
	伝 熱 管 外 径	mm	15.9 ^{*4}		
	伝 熱 管 厚 さ ^{*8}	mm	[] (1.6 ^{*4})		
	高 さ ^{*9}	mm	2808 ^{*4, *10}		
材 料	管 側	胴 板 ^{*11}	—	SM41A	
		上 部 平 板	—	SM41B ^{*6}	
		下 部 平 板	—	SM41B ^{*6}	
		胴 フ ラ ン ジ	—	SM41B ^{*6}	
	胴 側	胴 板 ^{*12}	—	SM41A	
		上 部 管 板	—	SUS304 ^{*6}	
		下 部 管 板 ^{*13}	—	SUS304	
伝 熱 管	—	SUS304TB			
個 数	—		2 ^{*3}		

変更なし

- 注記 *1：S I 単位に換算したもの。
- *2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用 1，予備 1）」と記載。
- *4：公称値を示す。
- *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
- *6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 11 月 27 日付け建建発第 112 号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-12-4 排ガス前置除湿器（Ⅲ-1-11-6）の規格計算書」による。
- *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「管板厚」と記載。
- *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱管肉厚」と記載。
- *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。
- *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には、支持脚から上部仕切室蓋までの高さである「3518」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「仕切室」と記載。
- *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。
- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「管板」と記載。

		変更前	変更後	
名 称		再生ガス加熱器	変更なし	
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m ³ /h/個	<input type="text"/> (500*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.34*3		
最 高 使 用 温 度	℃	340		
主 要 寸 法	胴 内 径 *4	mm		900*2
	胴 板 厚 さ *5	mm		<input type="text"/> (9*2)
	鏡 板 厚 さ *7	mm		<input type="text"/> (9*2)
	鏡板の形状に係る寸法	mm		900.0*2, *6 (鏡板長径)
				225.0*2, *6 (鏡板短径の2分の1)
	再生ガス入口管台外径	mm		139.8*2, *6
	再生ガス入口管台厚さ	mm		<input type="text"/> (6.6*2, *6)
	再生ガス出口管台外径	mm		139.8*2, *6
	再生ガス出口管台厚さ	mm		<input type="text"/> (6.6*2, *6)
	管 板 厚 さ	mm		<input type="text"/> (42.0*2, *6)
胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	<input type="text"/> (50.0*2, *6)		
高 さ	mm	2412*2, *8		
材 料	胴 板 *9	—	SM41A	
	鏡 板	—	SM41A	
	管 板	—	SUS304*6	
	胴 フ ラ ン ジ	—	SF50*6	
個 数	—	1		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-15 再生ガス加熱器の規格計算書」による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には、支持脚から端子ボックスまでの高さである「3670」と記載。記載内容は、設計図書による。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

*10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(4) 容器の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変更前	変更後
名 称			排ガス再結合器	変更なし
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m ³ /h/個	<input type="text"/> (7145*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	2.41*3		
最 高 使 用 温 度	℃	538		
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	1950*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/> (60*2)	
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/> (60*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1950.0*2, *6 (鏡板長径)	
			487.5*2, *6 (鏡板短径の2分の1)	
	排ガス入口管台外径	mm	406.4*2, *6	
	排ガス入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (21.4*2, *6)	
	排ガス出口管台外径	mm	508.0*2, *6	
	排ガス出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (26.2*2, *6)	
高 さ	mm	2500*2, *8		
材 料	胴 板*9	—	STPA24 相当 <input type="text"/>	
	鏡 板	—	STPA24 相当 <input type="text"/>	
個 数	—	2*10		
漏えい防止のための制御方法			—	

注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*2: 公称値を示す。

*3: S I 単位に換算したもの。

*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6: 既工事計画書に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-2 排ガス再結合器の規格計算書」による。

*7: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には支持脚から鏡板上端部までの高さである「3715」と記載。記載内容は, 昭和 51 年 11 月 27 日付け建建発第 112 号にて届け出した工事計画の添付図面「第 8-2 図 気体廃棄物処理系 排ガス再結合器」による。

*9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用 1，予備 1）」と記載。

*11：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(8) ろ過装置の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料及び個数

			変更前	変更後
名称			排ガス気水分離器	変更なし
種類	—		たて置円筒形*1	
容量	m ³ /h/個		<input type="text"/> (112*2)	
最高使用圧力	MPa		2.41*3	
最高使用温度	℃		94	
主要寸法	胴外径*4	mm	267.4*2, *5	
	胴板厚さ*6	mm	<input type="text"/> (9.3*2)	
	鏡板厚さ*8	mm	<input type="text"/> (9.3*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	248.8*2, *7 (鏡板長径)	
			62.2*2, *7 (鏡板短径の2分の1)	
	排ガス入口管台外径	mm	216.3*2, *7	
	排ガス入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (8.2*2, *7)	
	排ガス出口管台外径	mm	216.3*2, *7	
	排ガス出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (8.2*2, *7)	
高さ	mm	736.6*2		
材料	胴板*9	—	SUS304TP	
	鏡板	—	SUS304	
個数	—		2	

注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「同筒たて型」と記載。

*2: 公称値を示す。

*3: S I 単位に換算したもの。

*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴体内径である「248.8」と記載。記載内容は、設計図書による。

*6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*7: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和54年11月2日付け54資庁第11618号にて認可された工事計画の添付書類「1-4 排ガス気水分離器の規格計算書」による。

*8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

*10: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

			変更前	変更後
名称			排ガス前置フィルタ	
種類	—	たて置円筒形*1		
容量	m ³ /h/個	[] (80*2)		
最高使用圧力	MPa	(正圧) 0.34*3 (負圧) 0.10*3		
最高使用温度	℃	66		
主要寸法	胴内径	mm	1100*2	
	胴板厚さ*5	mm	[] (12*2)	
	平板厚さ	mm	[] (39.0*2, *6)	
	鏡板厚さ	mm	[] (12.0*2, *6)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1100.0*2, *6 (鏡板中央部内半径)	
			110.0*2, *6 (鏡板隅の丸み半径)	
	排ガス入口管台外径	mm	165.2*2, *6	
	排ガス入口管台厚さ	mm	[] (7.1*2, *6)	
	排ガス出口管台外径	mm	165.2*2, *6	
	排ガス出口管台厚さ	mm	[] (7.1*2, *6)	
胴フランジ厚さ	mm	[] (35*2, *7)		
高さ	mm	1059*2, *8		
材料	胴板*9	—	SM41A	
	鏡板	—	SM41A	
	胴フランジ	—	SF45*10	
	平板	—	SM41A*10	
個数	—	2*4		

変更なし

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用1，予備1）」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-5 排ガス前置フィルタの規格計算書」による。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

- *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には，支持脚から胴体蓋上端部までの高さである「1279」と記載。記載内容は，設計図書による。
- *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *10：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付図面「第3-6図 気体廃棄物処理設備 排ガス前置フィルタ構造図」による。

			変更前	変更後
名称			気水分離器	変更なし
種類	—	たて置円筒形*1		
容量	m ³ /h/個	<input type="text"/> (40*2)		
最高使用圧力	MPa	(正圧) 0.34*3 (負圧) 0.10*3		
最高使用温度	℃	66		
主要寸法	胴外径*5	mm	139.8*2, *6	
	胴板厚さ*7	mm	<input type="text"/> (6.6*2)	
	上部平板厚さ	mm	<input type="text"/> (23.0*2, *8)	
	下部平板厚さ*9	mm	<input type="text"/> (19*2)	
	排ガス入口管台外径	mm	60.5*2, *8	
	排ガス入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (5.5*2, *8)	
	排ガス出口管台外径	mm	60.5*2, *8	
	排ガス出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (5.5*2, *8)	
	胴フランジ厚さ	mm	<input type="text"/> (21.1*2, *10)	
	高さ	mm	276*2, *11	
材料	胴板*12	—	STPG38	
	上部平板	—	SM41A*8	
	下部平板*13	—	SM41A	
	胴フランジ	—	SM41A*14	
個数	—	2*4		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用1，予備1）」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には，胴体内径である「126.6」と記載。記載内容は，設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-7 気水分離器の規格計算書」による。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。

- *10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には、平板からフランジ上端部までの高さである「253」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板」と記載。
- *14：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付図面「第 3-8 図 気体廃棄物処理系 気水分離器構造図」による。

			変更前	変更後
名称			排ガス後置除湿器	変更なし
種類	—		たて置円筒形*1	
容量	m ³ /h/個		<input type="text"/> (40*2)	
最高使用圧力	MPa		(正圧) 0.34*3 (負圧) 0.10*3	
最高使用温度	℃		340	
主要寸法	胴内径*5	mm	900*2	
	胴板厚さ*6	mm	<input type="text"/> (9*2)	
	鏡板厚さ*8	mm	<input type="text"/> (9*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	900.0*2, *7 (鏡板長径)	
			225.0*2, *7 (鏡板短径の2分の1)	
	排ガス入口管台外径	mm	139.8*2, *7	
	排ガス入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.6*2, *7)	
	排ガス出口管台外径	mm	139.8*2, *7	
	排ガス出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.6*2, *7)	
高さ	mm	4037*2, *9		
材料	胴板*10	—	SM41A	
	鏡板	—	SM41A	
個数	—		2*11	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-8 排ガス後置除湿器の規格計算書」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、支持脚から充填物投入口までの高さである「5200」と記載。記載内容は、設計図書による。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用 1，予備 1）」と記載。

			変更前	変更後
名称			排ガスメッシュフィルタ	
種類	—	たて置円筒形*1		
容量	m ³ /h/個	□ (40*2)		
最高使用圧力	MPa	(正圧) 0.34*3 (負圧) 0.10*3		
最高使用温度	℃	66		
主要寸法	胴外径*5	mm	216.3*2, *6	
	胴板厚さ*7	mm	□ (8.2*2)	
	上部平板厚さ	mm	□ (26.0*2, *8)	
	下部平板厚さ*9	mm	□ (19*2)	
	排ガス入口管台外径	mm	75.0*2, *8	
	排ガス入口管台厚さ	mm	□ (7.0*2, *8)	
	排ガス出口管台外径	mm	75.0*2, *8	
	排ガス出口管台厚さ	mm	□ (7.0*2, *8)	
	胴フランジ厚さ	mm	□ (22.5*2, *10)	
	高さ	mm	826*2, *11	
材料	胴板*12	—	STPG38	
	上部平板	—	SM41A*8	
	下部平板*13	—	SM41A	
	胴フランジ	—	SM41A*14	
個数	—	2*4		

変更なし

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（常用1，予備1）」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴体内径である「199.9」と記載。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-9 排ガスメッシュフィルタの規格計算書」による。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。

- *10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には、支持脚からフランジ上端部までの高さである「1500」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板」と記載。
- *14：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付図面「第 3-10 図 気体廃棄物処理系 排ガスメッシュフィルタ構造図」による。

			変更前	変更後
名 称			排ガス活性炭ベッド	
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m ³ /h/個	□ (40*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	(正圧) 0.34*3 (負圧) 0.10*3		
最 高 使 用 温 度	℃	66		
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm	1350*2	
	胴 板 厚 さ*6	mm	□ (12*2)	
	鏡 板 厚 さ*8	mm	□ (12*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1350.0*2, *7 (鏡板長径)	
			337.5*2, *7 (鏡板短径の2分の1)	
	排ガス入口管台外径	mm	89.1*2, *7	
	排ガス入口管台厚さ	mm	□ (7.6*2, *7)	
	排ガス出口管台外径	mm	89.1*2, *7	
	排ガス出口管台厚さ	mm	□ (7.6*2, *7)	
高 さ	mm	7300*2, *9		
材 料	胴 板*10	—	SM41A	
	鏡 板	—	SM41A	
個 数	—	20		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-10 排ガス活性炭ベッドの規格計算書」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、支持脚から鏡板上端部までの高さである「7800」と記載。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付図面「第3-11図 気体廃棄物処理系 排ガス活性炭ベッド構造図」による。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変更前	変更後
名称			再生ガスメッシュフィルタ	
種類	類	—	たて置円筒形*1	
容量	量	m ³ /h/個	<input type="text"/>	(500*2)
最高使用圧力		MPa	0.34*3	
最高使用温度		℃	250	
主要寸法	胴外径*4	mm	406.4*2,*5	
	胴板厚さ*6	mm	<input type="text"/>	(12.7*2)
	上部平板厚さ	mm	<input type="text"/>	(35.0*2,*7)
	下部平板厚さ*8	mm	<input type="text"/>	(25*2)
	再生ガス入口管台外径	mm	139.8*2,*7	
	再生ガス入口管台厚さ	mm	<input type="text"/>	(6.6*2,*7)
	再生ガス出口管台外径	mm	139.8*2,*7	
	再生ガス出口管台厚さ	mm	<input type="text"/>	(6.6*2,*7)
	胴フランジ厚さ	mm	<input type="text"/>	(28*2,*9)
	高さ	mm	1137*2,*10	
材料	胴板*11	—	STPG38	
	上部平板	—	SM41A*7	
	下部平板*12	—	SM41A	
	胴フランジ	—	SM41A*9	
個数		—	1	

変更なし

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「381」と記載。記載内容は、設計図書による。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-16 再生ガスメッシュフィルタの規格計算書」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。

*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

- *10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、脚部から胴フランジ上端部までの高さである「1800」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板」と記載。

			変更前	変更後
名称			再生ガス気水分離器	変更なし
種類	類	—	横置円筒形*1	
容量	量	m ³ /h/個	<input type="text"/> (500*2)	
最高使用圧力		MPa	0.34*3	
最高使用温度		℃	66	
主要寸法	胴外径*4	mm	406.4*2,*5	
	胴板厚さ*6	mm	<input type="text"/> (12.7*2)	
	平板厚さ*8	mm	<input type="text"/> (25*2)	
	再生ガス入口管台外径	mm	139.8*2,*7	
	再生ガス入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.6*2,*7)	
	再生ガス出口管台外径	mm	139.8*2,*7	
	再生ガス出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.6*2,*7)	
	全長*9	mm	1100*2	
材料	胴板*10	—	STPG38	
	平板	—	SM41A	
個数		—	1	

- 注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒横型」と記載。
- *2：公称値を示す。
- *3：S I 単位に換算したもの。
- *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
- *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「381」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
- *7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11 気体廃棄物処理系機器配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-11-18 再生ガス気水分離器」による。
- *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。
- *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載。
- *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *11：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

			変更前	変更後	
名称			再生ガス油分離器		
種類	類	—	たて置円筒形 ^{*1}		
容量	量	m ³ /h/個	<input type="text"/> (500 ^{*2})	変更なし	
最高使用圧力		MPa	0.34 ^{*3}		
最高使用温度		℃	80		
主要寸法	胴外径 ^{*4}	mm	318.5 ^{*2,*5}		
	胴板厚さ ^{*6}	mm	<input type="text"/> (10.3 ^{*2})		
	上部平板厚さ	mm	<input type="text"/> (26.0 ^{*2,*7})		
	下部平板厚さ ^{*8}	mm	<input type="text"/> (22 ^{*2})		
	再生ガス入口管台外径	mm	139.8 ^{*2,*7}		
	再生ガス入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.6 ^{*2,*7})		
	再生ガス出口管台外径	mm	139.8 ^{*2,*7}		
	再生ガス出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.6 ^{*2,*7})		
	胴フランジ厚さ	mm	<input type="text"/> (24.1 ^{*2,*9})		
	高さ	mm	596 ^{*2,*10}		
材料	胴板 ^{*11}	—	STPG38		
	上部平板	—	SM41A ^{*7}		
	下部平板 ^{*12}	—	SM41A		
	胴フランジ	—	SM41A ^{*13}		
個数		—	1		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「297.9」と記載。記載内容は、設計図書による。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-11-20 再生ガス油分離器の規格計算書」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板厚」と記載。

*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

- *10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、下部平板端部から胴フランジ上端部までの高さである「570」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「平板」と記載。
- *13 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付図面「第 3-23 図 気体廃棄物処理系再生ガス油分離器構造図」による。

			変更前	変更後
名 称			排ガスフィルタ	
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m ³ /h/個	[] (11870*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.35*3		
最 高 使 用 温 度	℃	94		
主 要 寸 法	上 部 胴 内 径	mm	2700.0*2, *4	
	下 部 胴 内 径*5	mm	3100*2	
	上 部 胴 板 厚 さ	mm	[] (19.0*2, *4)	
	下 部 胴 板 厚 さ*6	mm	[] (19*2)	
	鏡 板 厚 さ (胴 体 蓋)	mm	[] (19.0*2, *4)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法 (胴 体 蓋)	mm	2700.0*2, *4 (鏡板中央部内半径)	
			270.0*2, *4 (鏡板隅の丸み半径)	
	鏡 板 厚 さ (下 部 鏡 板)	mm	[] (19.0*2, *4)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法 (下 部 鏡 板)	mm	3100.0*2, *4 (鏡板中央部内半径)	
			310.0*2, *4 (鏡板隅の丸み半径)	
	排 ガ ス 入 口 管 台 外 径	mm	762.0*2, *4	
	排 ガ ス 入 口 管 台 厚 さ	mm	[] (12.0*2, *4)	
	ド レ ン 出 口 管 台 外 径	mm	91.0*2, *4	
	ド レ ン 出 口 管 台 厚 さ	mm	[] (15.0*2, *4)	
胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	[] (197.0*2)		
高 さ	mm	4465*2, *7		
材 料	胴 板*8	—	SM41A	
	胴 体 蓋	—	SM41A*4	
	下 部 鏡 板*11	—	SM41A	
	胴 フ ラ ン ジ	—	SF45*9	
個 数	—	1		

変更なし

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦置円筒形」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：S I 単位に換算したものである。

*4：記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 6 月 5 日付け 50 資庁第 4488 号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-5-2 排ガスフィルタの規格計算書」による。

- *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴内径」と記載。
- *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
- *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には、脚部から胴体上端部までの高さである「5315」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *9：記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 6 月 5 日付け 50 資庁第 4488 号にて認可された工事計画の添付図面「第 4-2 図 気体廃棄物処理系排ガスフィルタ構造図」による。
- *10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板」と記載。

(10) 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
気体廃棄物処理系	0.98*2	66	76.4*3	<input type="text" value="7.7"/> (7.7*1, *3)	SCS14	気体廃棄物処理系					変更なし
			89.1*3	<input type="text" value="6.8"/> (6.8*1, *3)	SUS316*3						

注記 *1: 公称値を示す。

*2: S I 単位に換算したものである。

*3: 既工事計画書に記載がないため, 記載の適正化を行う。記載内容は, 昭和 50 年 10 月 6 日付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付書類「III-1-11-12 排ガス空気抽出器の規格計算書」による。

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
気体廃棄物処理系	排ガス消音器	0.34*2	180	216.3*3,*4	8.2*1,*5	STPG38					
				89.1*7	7.6*1,*7						
									—*6		

注記 *1：公称値を示す。

*2：S I 単位に換算したもの。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「199.9」と記載。記載内容は、設計図書による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：当該ラインについては、主配管に該当しないため、記載の適正化を行う。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
気体廃棄物処理系	再生ガス消音器	0.34*2	80	318.5*3,*4	10.3*1,*5	STPG38	気体廃棄物処理系				変更なし
				139.8*6	6.6*1,*6	STPG38*6					

注記 *1: 公称値を示す。

*2: S I 単位に換算したもの。

*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「297.9」と記載。記載内容は、設計図書による。

*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

変 更 前						変 更 後								
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料			
*10 蒸気式空気抽出器出口弁 及び弁 6-23V33 ～ 排ガス予熱器	2.41*2	205	267.4	9.3*1	STPT42	*4 排ガス前置フィルタ ～ 排ガス後置フィルタ	(正圧) 0.34*2 (負圧) 0.10*2	66	165.2	7.1*1	STPG38			
			165.2	7.1*1	STPT42				216.3	8.2*1	STPG38			
			318.5	10.3*1	STPT42				89.1	7.6*1	STPG38			
	2.41*2	205	318.5*9	10.3*1. *9	STPT410*9				66	66	60.5	5.5*1	STPG38	
			318.5*9	10.3*1. *9	STPT410*9						89.1	7.6*1	STPG38	
	2.41*2	538	318.5	14.3*1	STPA23				66	66	216.3	8.2*1	STPG38	
											318.5	10.3*1	STPT42	165.2
	排ガス再結合器 ～ 排ガス復水器	2.41*2	205	216.3	8.2*1				STPT42	66	66	812.8	9.5*1	SM41A
												2.41*2	538	318.5
	排ガス復水器 ～ 排ガス気水分離器	2.41*2	205	216.3	8.2*1				STPT42	66	66	216.3	8.2*1	STPG38
2.41*2						205	216.3	8.2*1				STPT42	89.1	7.6*1
排ガス前置フィルタ ～ 排ガス後置フィルタ	0.34*2	66	216.3	8.2*1	STPT42	340	340	139.8	6.6*1	STPT42				
			216.3	8.2*1	STPG38			60.5	5.5*1	STPT42				
			89.1	7.6*1	STPG38									
			60.5	5.5*1	STPG38									
排ガス減衰管	0.34*2	66	812.8	9.5*1	SM41A									

気体廃棄物処理系

気体廃棄物処理系

変更なし

変更なし

変更なし

変更なし

変更なし

変更なし

変更なし

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
気体廃棄物処理系	*5, *6 排ガス後置フィルタ ～ 排気筒	(正圧) 0.34*2 (負圧) 0.10*2	66	89.1	7.6*1	STPG38	気体廃棄物処理系	変更なし				
				60.5	5.5*1	STPG38		—*8				
		(正圧) 0.98*2 (負圧) 0.10*2	66	60.5	5.5*1	STPG38		変更なし				
		0.98*2		66	89.1	7.6*1		STPG38	—*8			
		0.34*2, *7	200*7	89.1*7	7.6*1, *7	STPG38*7		—*8				
		0.34*2	66	89.1	7.6*1	STPG38		—*8				
				114.3	6.0*1	STPG38		変更なし				
				216.3	8.2*1	STPG38		変更なし				
		0.35*2	66	216.3	8.2*1	STPT42		変更なし				
		*5, *6 排ガス後置除湿器 ～ 再生ガスブロウ	(正圧) 0.34*2 (負圧) 0.10*2	340	139.8	6.6*1		STPT42	変更なし			
0.34*2	250		139.8				6.6*1			STPT42		
	66		139.8	6.6*1	STPT42							
	250		89.1	7.6*1	STPG38							
再生ガスブロウ ～ 排ガス後置除湿器	(正圧) 0.34*2 (負圧) 0.10*2	340	139.8	6.6*1	STPT42	変更なし						
	0.34*2						340	139.8	6.6*1	STPT42		
	0.34*2	80	139.8	6.6*1	STPT42							

注記 *1：公称値を示す。

*2：S I 単位に換算したもの。

*3：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3-1 排ガス減衰管の規格計算書」による。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「排ガス前置フィルタより排ガス前置除湿器、気水分離器、排ガス後置除湿器、排ガスメッシュフィルタ及び排ガス活性炭ベッドを経て排ガス後置フィルターまで」と記載。

- *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「排ガス後置フィルタより排ガスブロワ及び排ガス空気抽出器を経て排気筒へ（屋外配管を除く）」と記載。
- *6：記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年10月30日付け49資庁第18032号にて認可された工事計画書に「廃棄物処理棟から排気筒まで」と記載。「排ガス後置フィルタ～排気筒」に整理。
- *7：記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月6日付け50資庁第8313号にて認可された工事計画書に「2. 廃棄設備[1]気体廃棄物処理系(15)排ガス後置冷却器」と記載。「排ガス後置フィルタ～排気筒」に整理。
- *8：当該ラインについては、主配管に該当しないため、記載の適正化を行う。
- *9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「蒸気式空気抽出器出口弁より排ガス予熱器まで」と記載。

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (2/30)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	気体廃棄物処理系	熱交換器	排ガス復水器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス前置除湿器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			再生ガス加熱器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
		容器	排ガス再結合器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
		ろ過装置	排ガス気水分離器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス前置フィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			気水分離器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス後置除湿器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガスメッシュフィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス活性炭ベッド	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			再生ガスメッシュフィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			再生ガス気水分離器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			再生ガス油分離器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガスフィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
		主配管	排ガス空気抽出器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
排ガス消音器	B-1		クラス3	—	—	—*2	—	—				

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (3/30)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	—	主配管	再生ガス消音器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			蒸気式空気抽出器出口弁及び弁 6-23V33 ～ 排ガス予熱器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス予熱器 ～ 排ガス再結合器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス再結合器 ～ 排ガス復水器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス復水器 ～ 排ガス気水分離器	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス気水分離器 ～ 排ガス前置フィルタ (排ガス減衰管を除く)	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス減衰管	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス前置フィルタ ～ 排ガス後置フィルタ	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		
			排ガス後置フィルタ ～ 排気筒	B-1	クラス3	—	—	変更なし	—	—		

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (4/30)

設備区分		系統名	機器区分	変更前				変更後					
				名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
					耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	気体廃棄物処理系	-	主配管	排ガス後置除湿器 ～ 再生ガスブロワ	B-1	クラス3	-	変更なし	-	-			
				再生ガスブロワ ～ 排ガス後置除湿器	B-1	クラス3	-		変更なし	-	-		

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (30/30)

設備区分	系統名	機器区分	名称	変更前				変更後			
				設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス	耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	その他	排気筒	主排気筒	C-1	-	-	-	変更なし			
			非常用ガス処理系排気筒	S	-	-	-	変更なし			

注記 *1：表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針、適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。

*2：当該ラインについては、主配管に該当しないため、記載の適正化を行う。